

印西の石造物 -その5-

ちょっと昔は、ウォーキングにでると路傍にポツンと佇むお地蔵さんに出会うことがありましたが、最近は何だに会うことはなくなってしまいました。

お地蔵さんは「地蔵菩薩」といい、仏教の始祖「仏陀」が入滅された後の56億7000万年後に兜率天より「弥勒菩薩(みろくぼさつ)」が救世の仏として出現されるまでの間、釈迦に代わって六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天)を輪廻する衆生の苦しきから導き救済するといわれています。

地蔵菩薩の信仰は、奈良時代に始まり、末法思想が盛んになった平安時代に広まりました。江戸時代になって庶民信仰の対象として広く農村に定着し、盛んに像が造られるようになりました。地蔵菩薩塔は、単独の像としてお祀りされるばかりでなく、六道の世界までその功德力が及ぶとされ、六道のそれぞれを象徴して「六地蔵」と称される六体の地蔵をお祀りされているのも特徴です。これらの六地蔵は、印西市内のいくつかの寺院や墓地に造立されています。

六地蔵



松崎



木下



木下

3体ずつ2段に分かれて刻まれています。



結縁寺

6面に1体ずつ刻まれています。



大森

2体ずつ3段に分かれて刻まれています。